

## 事例 20 民有林と連携したシステム販売の取組

(中部森林管理局 木曽森林管理署、中信森林管理署)



- 長野県木曽郡木祖村（きそむら）
- 共同土場に集積されたカラマツ材  
（令和5年3月）

中部森林管理局では、平成26年度より管内民有林との共同土場を活用した「民有林と連携したシステム販売」を実施しています。

木曽森林管理署の<sup>やぶはら</sup>藪原土場を活用した販売については、9年間に渡る

継続した取組により、木材需要者に広く認知されています。令和4年度は、木曽森林組合、木曽森林管理署及び中信森林管理署が、合わせて10,467m<sup>3</sup>（民有林2,729m<sup>3</sup>、国有林7,738m<sup>3</sup>）のカラマツ丸太をこの土場で販売し近隣の合板工場等が購入しました。

民有林と国有林が協調することによって、木材供給の大ロット化や年間を通じた安定供給を実現することで、合板工場での国産材使用比率の向上に資するとともに、共同土場での効率的な丸太仕分けや大型トレーラーの活用による大量輸送が可能になりました。